



教会短信

2010年6月6日

No. 33

牧師 間瀬 善彦

以前教会短信に、「お返し」がなくても神からの報いがあると書きましたが、そのことについて地域の方からご質問をいただきました。それは、「キリスト教ではお返しをしてはいけないのですか」という質問でした。このようにわたしの拙い文章に対して率直な質問をいただいたことを心より感謝いたします。

日本人のお返しの習慣は、人の施しに対して感謝の気持ちを表わす美しい習慣だと思います。ただ、習慣化されてきた中で、お返しを義務と感じる人がいるようです。本来の感謝を表わすことから義務と考えるようになると、お返しが形式だけになって、物のやり取りで終わってしまうこととなります。その反対のことも起こります。施しをした側が、お祝いをあげたのにちっともお返しがないと、お返しがないことを失礼だと考えて、不平を言うようになります。こうしたことをわたしは度々耳にしていまいりました。

このような経験から、わたしは人にお祝いやお見舞いを差し上げるとき、お返しは辞退する旨を相手に告げて差し上げることにしています。その方がお返しを何にしようかと相手を煩わすことがないでしょう。わたしはお返しはしてはならないとは考えていませんが、お返しのために相手を煩わせることがないように配慮をしたいと思っていますのです。

わたしの一番申し上げたかったことは、お返しのできない人に施しをしなさい、と聖書は教えているということです。あなたの周りにも、人から施しをしてもらってもお返しのできない人がきつといらっしゃるのではないのでしょうか。

わたしたちは親戚や友人たちとの物のやり取りに気を取られて、それ以外の人びと、本当に施しを必要としている人びとの存在を忘れてしまっているのではないのでしょうか。未だこの世界は平和とはほど遠い状態ですし、わたしたちの助けを必要としている人たちはたくさんいます。今日生きていくことだけが精一杯で、たとえ人から施しをいただいてもお返しなどとてもできそうもない人びとがたくさんおられるということを、わたしたちは改めて思い起こしたいものです。このようなお返しのできない人に施す人には、神は豊かな恵みをもって報いてくださいます。

いのちの不思議

「わたしたちの生涯は、待ち望みつつ生きる短い期間です」

(『静まりから生まれるもの』 ヘンリ・ナウエン)

私は中学・高校時代から60年間ずっと信頼しあっていた親友を突然失った。明るくて、お料理が上手で、健康の話題がでると、私は救急救命センターが家のすぐ近くにあるから安心だといつも言っていた。だが、3月22日突然自宅で倒れてその病院に運ばれたが助からなかった。とても素敵な女性であったので、私はその死をどう受け止めてよいのかわからなかった。悲しくてたまらなかった。

そのような状況のとき、昔の教え子のYさんから30年ぶりに電話があった。Yさんは不思議な体験を話してくれた。Yさんは今は短大の教師をしている。

Yさんの教え子が重い病気で入院していた。病院へお見舞いに行こうとすると、その子の母親から、「もう意識がないので行っても無駄です」と断られた。それでも気になって行ってみると毛布の下から足が二本出ているので「Yです。しっかりしてください!」と教え子の両足を握ってゆさぶり続けた。まぶたと唇がかすかに動いた。Yさんは夢中で祈った。翌日も気になって訪ねてみたら、目を今にもあけるような様子を見せ、次に行ったときには、唇を動かして何か言いたそうに見えた。祈りながら毎日通ううちに教え子は少しずつ回復し、半年後に、本人が元気な姿で学校に終了証書を取りに来た。Yさんは驚いた。

私たちは、生きるために日々努力をしている。健康のための情報を集めたり、健診を受けたりする。しかし、それだけでは、日常、心の奥底に隠している死への恐怖や不安を拭えないことに私は気がついた。なぜなら、いのちは創り主である神様が鍵を握っていらっしゃるからだ。そして、わたしたちも人間だからやがては死を迎える。

したがって、必然的に私たちはその先は神様にすべてを委ね、救い主イエス・キリストのみ心を行いつつ神様のご計画に導かれて生きていくことが何よりも大切なことになる。それではじめて、私たちは「主にあるの平安」を得られるのだということがだんだんわかってきた。静かに祈っているうちに、Yさんからの電話も神様からのお恵みであったように思えてきた。

私は今日も神様のみ言葉（聖書）を学びに教会に行く。

T. K

「私たちは、見えるものではなく、
見えないものにこそ目を留めます。
見えるものは一時的であり、
見えないものはいつまでも続くからです」

(コリントⅡ4:18)



実質的に、ニッポン人の多くは無宗教と言われます。それでもスピリチュアルものは根強い人気です。目に見えない何かについて、多くの人を感じているのかも知れません。上のことばの「見えないもの」は、霊的な存在、究極的にはキリストのことです。困難に直面したとき、どう乗り越えるのか。見えるものの背後にあるものや、それを本当に動かしているものは何かについて思いめぐらすことが、根本的な解決の第一歩になるのではないのでしょうか。

(『聖書の品格』いのちのことば社より)



5月9日(日)は、母の日でした。

日頃の女性たちの働きを覚えて感謝の時をもちました。

6月20日、第3日曜日は父の日です。

日頃のお父様方たちのお働きを覚えて感謝の時をもちます。

よろしければ礼拝にいらっしやいませんか。お待ちいたしております。